

(仮称)真駒内地区義務教育学校の交通安全対策に係る会議 議事概要

1 日時

令和5年(2023年)2月28日(火)14:00~15:00

2 場所

真駒内桜山小学校 1階多目的室

3 出席者

別紙のとおり

4 協議会次第

(1) 開会のあいさつ(教育委員会教育推進課 石田課長)

真駒内地区の義務教育学校新築にあたり、周辺の交通安全について、出席の皆様の様々な立場からご意見をいただき、子どもたちの安全・安心に通うことができる環境を作っていきたい。色々な意見を出していただき、警察や土木センター等の関係各所に検討いただく中で、よりよいものを作っていきたい。今回は第1回目の会議ということで、皆様が普段から感じていることの意見を出していただきたい。

(2) 自己紹介

(3) 学校が現状把握している課題についての説明

・真駒内桜山小学校より

義務教育学校の新設にあたって3点懸念がある。

一つ目は、昇降口の位置が変わることから、子どもたちが真駒内団地中央線と真駒内南町1号線の交差点(資料1の①の位置)を通過していくことが考えられるため、この位置に信号機が必要と考えている。

二つ目は、真駒内南町1号線の昇降口のあたり(資料1の②の位置)に子どもたちが安全に渡れるように、横断歩道が必要。校外学習の際などにも使うことが想定される。

三つ目は、第2グラウンドを使用する際に、真駒内南町1号線と真駒内団地東4号線の交差点(資料1の③の位置)を子どもたちが横断することになる。渡り方は色々考えられると思うが、③の位置に信号機が必要。子どもたちが第2グラウンドに行くときは勝手に行くことはないと思うが、2学年合同で使用するときに長い列で移動することになる。けがをした子どもが授業の途中で教室に戻るという場合もあるので、その時に信号機があつてきちんと停まることができる環境や、信号機があることで安全に移動することができると考えている。

- ・真駒内中学校より

第2グラウンドは主に後期課程（中学生）が使うことが想定されるため、部活動や校外活動の時間帯の危惧をしている。夏と冬では交通状況が違ってくるため、その辺りを踏まえて検討が必要と感じている。

- ・駒岡小学校より

本校で義務教育学校の説明会を開催した時に、将来的に桜山小学校の方に通わせたいという保護者の方からいただいた意見として、バス通学をするときに南町3丁目のバス停付近が非常に暗く、防犯上よくないのではないかとの話があった。

⇒（南警察署より）横断歩道、信号機については、必要性があれば設置しなければならないが、必ずしも約束できない。信号機については、交通量も踏まえて検討が必要。

⇒（南区土木センターより）

バス停が暗いという話があったが、街路灯について、まずは現地確認をしたい。

(4) 意見交換

- ・真駒内団地中央線と真駒内団地7号線の交差点（クリーニング店の前）は雪山がすごくて、中央分離帯も全然除雪されていない状況で、車が見えなくて危ない。

⇒（南区土木センターより）南区は昨年度より降雪量がかなり多く、順次、交差点排雪を実施している状況。雪山が高いところは雪をかくように対応している。本日、気温上昇しているので、雪山が一気に低くなる可能性もあるので、状況を見ながら酷い箇所の対応をしていきたい。今年に限らず、雪山が高いところは順次排雪をしているので、そういった状況があったら土木センターにご連絡いただけたら、即日難しいが、対応を検討させていただく。

- ・学校と泉町公園の間にある道路（真駒内団地東3号線）は、路上駐車が多く、朝は大丈夫だが、夕方は休んでいる方が多い。子どもが車に引き込まれても気づかないと思うので、何とかならないか。

⇒（南警察署より）人が乗っている車のため、違法駐車にはならない。保安上の問題があれば何らかの対応が必要と思うが、札幌市内で駐車禁止じゃなくて停まれる場所が少ないという状況もある。一過性のもものではあるが、近くの交番にお願いしてパトロールしてもらうことは可能。

- ・第2グラウンドへの安全な移動を確実にするための対策として、信号機、横断歩道、ガードレール等の設置をはじめ、場合によっては、歩車道の拡幅工事等、時間帯を定めた車両進入禁止や迂回路指定、その他の交通規制も必要になってくる。歩道橋

のことも考えてみてもよいかもしれない。

通学路については、学校の向きや玄関口が変わり、また、真駒内駅前の再開発によって、道路形態や交通の流れが大幅に変わるので、それとの関連を十分に考えながら、安全な通学路を設定しなければならない。

いずれにしても事前に道路診断を実施して、道路や雪山、悪路、樹木の茂み、障害物、工事現場の有無などをチェックし、子どもたちの利便や安全を十分に考慮した通学路を設定すべき。そのためには、時期が来たら、道路診断を実施する学校・PTA・警察・道路管理者・住民からなるチームを作って、きちんと対処していった方がいいと思う。

ただし、これまでも安全施設等を設置しようとする、必ず住民等から反対の声が出てくるので、住民の理解や協力が得られるよう、事前に十分に説明、根回しすることが大事になってくると思う。安全施設の所管は、警察、公安委員会、道路管理者なので、この辺の後押しがしっかり受けられるよう平素から良好な関係を結び、確たるものにしておく必要がある。

なお、補足になるが、安全施設の整備が落ち着いたら、次に安全教育の充実や住民の協力確保に取り組みたいと思う。安全教育の充実では、授業内容の検討、低学年、中学年、高学年ごとなど中身を検討していただきたい。また、通学路の点検、整備はもちろんのこと、自転車教室も授業や課外活動に取り入れていただきたい。

住民の協力確保は、通学路の見守り、声掛け、放課後の遊びの注意は地域の住民がやってくれるものと思う。交通指導員の配置をお願いするとか、そういうことも十分に考えながら、忘れないようにやっていった方がいいと思う。いずれにしても焦点がボケないよう、安全施設、安全教育、住民の協力確保という3つを柱にしながらやっていった方がよい。

⇒（真駒内桜山小より）小学校では4～5月に交通安全教室を行っており、警察にも来てもらって、自転車の乗り方や、事故があった時に責任が生じるため責任を持って乗ろうということを発達段階に応じて教育を行っているところ。日常的には学級活動の中で自分の命は自分で守るという教育を行っている。地域の方に声掛けをいただくというのがすごく大事だと思う。思わず飛び出してしまう低学年もいる。常に子どもたちを支えていただく地域の方あってこそ、安全、安心が守られるなど実感している。これからも協力をお願いしたい。

- ・交通安全指導員も高齢化していて、携わる人がいなくなっている。PTAの方に年間を通じて協力していただきたい。義務教育学校になると資料1の①と③はかなりの人数が通ることになる。
- ・現在、この周辺は交通指導員1名。今後子どもが増えても、これ以上指導員を増員するのが厳しい。今までの観点を覆して、別の方法を考える必要がある。PTAの方も積極的に交通指導に立つ、中学生が高学年となったら、大人ばかりではなく、

子ども同士で下級生を見てあげる、新しい学校の在り方を一つ考えてみてもよい。今後、信号が出来ても、当面は安全対策が必要。地域だけでは到底間に合わない。先生、PTA、上級生が下級生を見るなど、安全確保を考えてほしい。

- ・児童会館は学校の昇降口に隣接した位置となるが、現状もそうだが、広さのわりに子どもの数が多い。真駒内団地東3号線を挟んで向かい側に大きな公園があるので、雨が降っていない日は最大限に活用しながら活動していくことになると思う。そうすると放課後に真駒内団地東3号線を小学生が往来することがかなり多くなる。児童クラブではある程度まとめて行ったり来たりすることはできるが、自由に遊びに来るお子さんもいるので、公園で遊んでてちょっと中に入るといってお子さんも出てくる。狭い道なので、ここに信号や横断歩道というのは難しいと思うが、子どもたちが頻繁にここを通るよということがドライバーさんにうまく伝わるように、標識みたいなものがあるのか、啓発的に注意を促していただくようなものがあると、より安全になるのかなと思うので、検討いただきたい。
小学生をお迎えに来る車も多いので、夕方にかけて保護者の方の車の出入りというのもかなり多くなってくると思う。

- ・再開発で交通が遮断されると、みんな獣道を探して、そっちに流れる。真駒内南町1号線は、真駒内駅前の再開発の影響で迂回路になる可能性があるため、その対策もしっかり考えておく必要がある。

- ・再開発の関係で、道路の交通状況がどう変わるのか、予測はあるのか。
平岸通を直進してきたものが、一本内側に、真駒内団地東4号線に入ってくる可能性があるのであれば、対策を考えないといけないと思うが、そういう予測はあるか。

⇒（教育委員会より）事前に担当課に確認したところ、駅前のシミュレーションはあるが、桜山小学校周辺までのシミュレーションをしていないとの回答があった。

- ・真駒内南町1号線は、公園の向いに住んでいる住宅が、公園に雪捨てをしている状況だが、学校の昇降口の位置が変わると、より除雪が必要になると思うが、昇降口位置変更により除雪は増えるか。

⇒（南区土木センターより）学校前の通学路については、3学期までに排雪作業を行っている。通常、降雪時の除雪は、通学路に限らず、札幌市が管理している道路について、10cm程度の降雪でかき分け除雪を行っている。交差点の排雪は、雪の高さの状況が毎年違うため、パトロールしながら、皆様からの意見を踏まえて対応していく。ただ、除雪作業も業者の高齢化や働き改革により、作業員の確保が難しいという状況がある。作業員が少なくなっている状況もご理解いただきたい。

- ・横断歩道のパターンはどのようなものがあるか。信号の有無、信号がある場合は押

しボタンの有無、歩道橋などあるのだと思うが、特に資料1の③の位置は、斜め横断できるようになっていた方がグラウンドに行くにはよいと思うと、スクランブル交差点も考えられる。信号機を置くほどの交通量でもないのかとかその辺の意見も聞きたい。小学校は信号機があった方がよいかもわからないが、中学校は現状信号機がないので、それがいいのかどうか、中学校の関係の意見も聞きたい。

⇒（真駒内中PTA会長より）中学校の前の横断歩道は、子どもと車で譲り合いをしていることが多い。

- ・雪が積もると横断歩道は見えなくなる。地元の方は分かるが、地元じゃない人が通ると、ただ子どもが飛び出しているようにしか見えないのではないかと。
- ・信号機一つをつけるのも大変なので、需要に見合った箇所につける必要があるが、裸の横断歩道ほど危ないものはない。交通事故はそういうところで起きる。横断歩道は気を配ってつけていく必要がある。
- ・ちあふる南の前の丁字路の横断歩道のところも、朝、斜めに突っ切る人が多く、かなり危険。資料1の③の位置に信号がつくつかないか心配。交通量を調査して検討というところ、交通量が多くなければつかないと捉えてしまう。私は絶対に必要だと思う。何か事故があってから、やはりつければよかったとなると、この地域の汚点になると思う。③の位置はがっつりやっていたらいいかと、確認していただかないと困るところだと思う。交通量調査の結果、信号機がつかないとなったときに、住民がどのように動くかを知りたい。

中学生が部活動で第2グラウンドを利用するときにはまた一つハードルがある。これから部活動の地域移行が始まり、地域の指導の方が入ってきたときに、万が一事故があったときの責任がどのようになるのかとか、色々な複雑な問題があるので、③の位置は万全な対策をしていただきたい。子どもたちは忘れ物をしたときや時間に遅れそうなときに、周りを見ないで、斜めに横断していく可能性もあると思う。できる限りの対策を本当にお願したい。

除排雪もしっかりとお願したい。平常時はいいが、この辺は熊もでるし、緑町2丁目では最近ひったくり強盗事件もあった。万が一、雪が多いときにそういうことがあった場合に、たくさん子どもたちが、どう避難するか考えていかなければいけない。除排雪や信号を含めて、スムーズに移動できることを考えていかなければいけないと思う。

地域住民として、駒岡地域の子も含め、どうやって把握して守っていけるか不安。見たことない子をほっておかない状況を住民として作らないといけないうし、安全を確保していかないと考えている。

柏丘のお子さんたちも柏橋やグリーン橋は、冬場はかなり危険。児童会館で夕方に帰らなきゃいけないときに不安。

東京の大田区では、全校の父母に1年に2回、朝か夕方か選んでもらって通学路に立ってもらっていた。お仕事で参加できない方は当人同士で調整してもらう仕組み。どこまでPTAの方に協力してもらえるか分からないが、ご自分の子どもたちを守るために協力してくださいとお願いできないかなと思う。

エドウィン・ダン記念公園の脇の路上駐車が危険。何年も前からの話で、警察に要望を伝えるとその時はよくなるが、ほとぼりが冷めるとまた同じような状況になるので、やはり危ないと思う。

⇒（南警察署より）スクランブル交差点にしてしまうと、道路上を横断する時間が長くなる。道路を横断する行為は本来危険な行為のため、その時間が増えることによる危険が増す。この交差点の規模で必要があるのかという点もある。また、最近の事故の傾向から、交差点の角に乗り上げたりしないように柵を付けて、あえて乱横断させないようにしているところもある。横断歩道の位置関係は、道路環境を踏まえて考え直さないといけない。

通学路は、人の目がある大きな道路が防犯上いいし、除雪の管理があるところがいい。真駒内団地東3号線自体を残す必要性があるのかという議論もある。周りの道路全体を含めて、考えていく必要がある。

真駒内南町1号線の交通量は少なく、抜け道としての利用は少ない。現在、道路が広すぎて、駐車がしやすくなっているといった色々な問題がある。そういったことも含め、検討をしていただくと助かる。信号機がつくと切り切れぬのは、そういうところがある。その辺を検討した上で、可能な限り安全対策をしていきたい。なお、警察の交通規制は道路環境でうまくいかない場合にやらざるを得ず規制するものなので、新しい学校ができるタイミングでまずは道路環境を整えることを考えるのがいい。

⇒（南区地域安全担当より）信号機の設置要望は、今は区が受け取ることはなく、公安委員会に直接提出することになっている。

我々としては、真駒内南小、真駒内緑小だった時代から、スクールゾーンの指定をしていて、そのスクールゾーンに基づいて看板の設置をしたりしているが、新しい学校になったときに今一度見直して、看板の設置をするなど、注意を促していくことが役割になると考えている。

信号機新設の話があがっているが、移設も含めて考える必要あると思う。その際に児童生徒がどこを何人通るかというのも大事。どこを何人通るか実際に考えた上で、次の段で、警察、土木さんと相談して、より安全な方向になるように案を作っていくのがよいと思う。どうしてもこれを絶対やりたいとなると、そこで頓挫して、また一からやり直しということもある。よりよい方向になるように、複合的に考えて、一番現実的で安全なものを皆さんと一緒に考えていくのがよいと思う。

- ・ 交通量、通学路の通行人数のシミュレーションはいつくらいまでにするのか。

⇒（地域安全担当より）現状の施設配置での人数は把握しているが、新しい施設の配置で、どこに横断歩道ができるかによっても通る子どもの数は変わってくると思う。現時点では、実際の数の把握までは難しい。

- ・皆、知恵を持っているので、色々な意見を上手に集めて、情勢を見極めながら、積み上げながらやっていくのがよい。これがスタートなので、これからが大事。今回は検討のスタートとして有意義な会議になった。

(5) 閉会のあいさつ(真駒内桜山小学校 小田校長)

本日、年度末という忙しい中、お集まりいただいたことに感謝申し上げます。

話をさせていただきながら、子どもたちの安全、安心を守るため、多様な考えを出しながら、大人たちが知恵を絞ることが大切だと感じた。7～15歳の子どもたちが800人、その裏には親を含めると2,400人規模となる。教員や児童会館の職員もいる。数年後にはコミュニティスクールという考えも入ってきて、義務教育学校が地域のコミュニティの拠点となっていくことを考えると、より安心安全な方向にシフトしていけたらと感じた。これを第一歩として、皆さんの知恵を合わせながら、子どもたちが安心安全に活動できるようご協力いただきたい。

以上